

本試験は、本来は実際の建築物を使用して調査票の作成を行う試験であるが、実際の建築物を確保できない場合のみ、仮想の建築物と写真を使用して行っている。

実際の建築物を使用するため、本来は、資料公開できない試験であるが、仮想の建築物と写真を使用する場合には、状況設定及び写真等の一部資料のみを公開する。

調査票試験問題

【設 問】

ある建築物の石綿含有調査を行いました。別添の写真集は、調査時に撮影した各所の写真です。

写真集を見て、左下の仕上表にある建材名に示された建材について、当該建材が石綿含有建材のレベル1、2、3のどれに該当するかを判断し、別紙の解答用紙の建材のレベル区分回答欄の中からレベルの数字を選び、○で囲んでください。

当該建材がレベル 1、2、3 のいずれにも該当しない場合（アスベストを含有しない建材）は**非石綿**を○で囲んでください。

ただし、1つの建材名につき、囲むことのできる○は1つのみとなります。2つ以上○をつけた場合は不正解となります。

【注意事項】

1. この試験は、レベル1、レベル2及びレベル3の石綿含有建材を正しく区別できるかを問う試験です。
2. 写真集には部屋ごとに写真を示していますが、その上部に棟名、階層、部屋名を示し、写真の左下部に仕上表を記載しています。なお、仕上表は設計図書に書かれる略称や通称で記載されている場合があります。
3. 写真があっても回答用紙に記載のないものについては、解答は不要です。
4. 本問題の写真は試験問題用に編集したものであり、実在する建築物ではありません。従って、必ずしも同じ現場、同じ時期に撮影したものではなく、複数の現場の写真を組み合わせて一つの仮想の現場としています。

【参考情報】

調査にあたっては、事前に対象とする建築物の所有者に対してヒアリングを実施しました。

参考情報として、第2頁にヒアリング内容を示します。対象となった建築物は新館と旧館です。調査は新館から開始しました。第3頁に新館の外観図を示します。第4頁に一階平面図を示します。

石綿含有建材調査における建築物所有者への事前ヒアリング内容

- ・ 建築物の竣工年は、旧館が 1970（昭和 45）年で、その後、別館として新館が 1982（昭和 57）年に新設された。建築物の定礎に記載されている社名は、現在の会社の昔の名前であり、実質的に所有者は、竣工時から変わっていない。
- ・ 別添 1 に新館の外観図、別添 2 に新館の 1 階平面図を示す。平面図は、竣工時のものであり、その後、改修工事が何度かされている。

新館についてヒアリングした結果を以下に示す。

- ・ 建築物の階数は、地下 1 階、地上 10 階である。
- ・ ボイラーは以前、地下 1 階にあったが、現在は使用していない。10 年ほど前に個別空調システムに変更している。
- ・ 1 階の銀行の窓口業務室と金庫室、支店長室は、立入り禁止である。
- ・ 2 階通路のエキスパンションジョイントカバーは取り外すことができない。
- ・ 4 階までは、所有者が使用しており、調査が可能である。
- ・ テナント部分が多く、テナントの入れ替え時に内装を改修しているが、記録はいずれも残っていない。テナントが入る 5 階から 9 階は、入室禁止である。
- ・ 10 階部分は、1990（平成 2）年に増設された。
- ・ 屋上には煙突がある。ボイラー使用を止めているが、自家発電装置の排気を通しているため、煙突の使用を止めていない。

次に旧館についてヒアリングした結果を示す。

- ・ 旧館は、地上 5 階建てで、1 階と 4 階は、調査できたが、2、3、5 階は、テナント部分であり、入室できない。

以上

新館・3階 倉庫



天井を見上げる



部位	材 料 名
はり	ケイ酸カルシウム板第2種

16

新館・4階 厨房



厨房の全景



部位	材 料 名
天井	フレキシブルボードに 塗装仕上げ


17

解答例

調査票解答用紙の答え方について、解答例を以下に示します。解答する際の参考にしてください。

■写真集

工場棟・1階 倉庫



部位	材 料 名
外壁	石綿含有押出成形セメント板

1



この建材はレベル3なので、
3に○をつける

■解答用紙 正答例

写真集 ページ NO.	棟・階	部屋名	部位	材 料 名	建材のレベル区分回答欄 (正しいレベルに○をつけてください)			
					1	2	3	非石綿
1	工場棟・1階	倉庫	外壁	石綿含有押出成形セメント板	1	2	3	非石綿
:	:	:	:	:	1	2	3	非石綿
:	:	:	:	:				